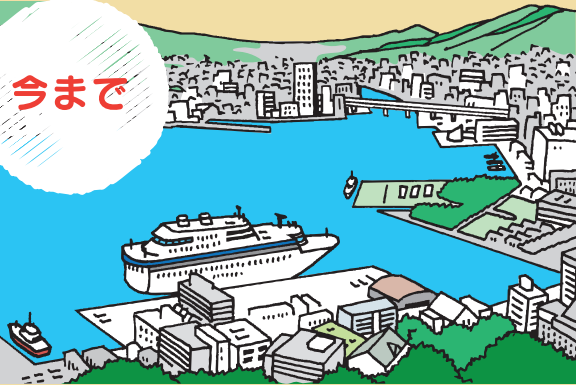


# みんなで考えよう 20年後の都市づくり



## 今まで



長崎市は明治22年、約7km<sup>2</sup>(現在の市面積の約2%)、人口約5万5千人(現在の人口の約13%)のまちとして生まれ、その後、約130年の間で12回合併し、面積約406km<sup>2</sup>、人口約43万人の現在のまちになりました。人口が増えるにつれ、道路や公園など公共施設や上下水道などのインフラを整備し、生活に必要な住宅や働く場である事務所や工場などがどんどん増え、成長・発展してきました。

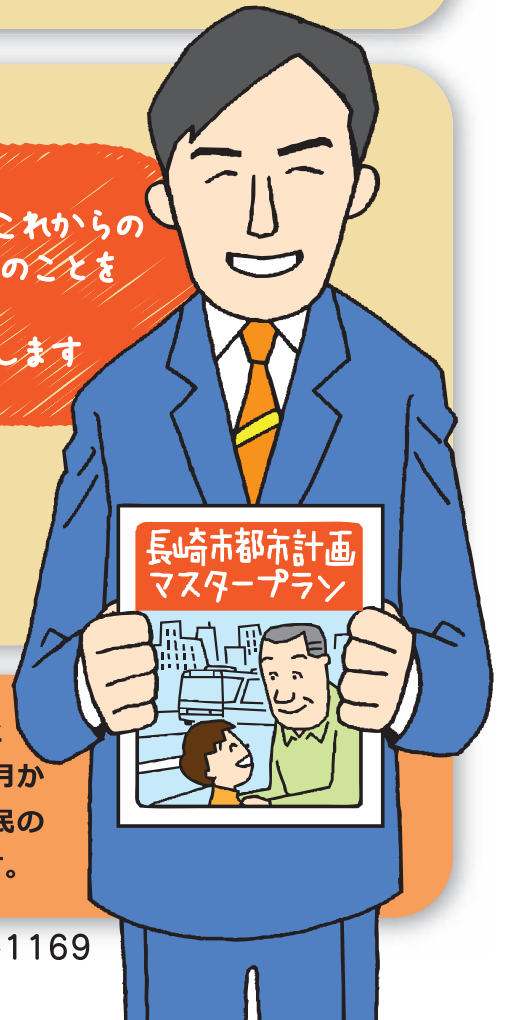
## これから

今後日本では、人口減少・少子高齢化が急速に進むことが確実と言われており、私たちのまちも例外ではありません。国立社会保障・人口問題研究所が推計した将来推計人口によると、20年後の平成47年には、現在の人口より8万人減少し、高齢化も進むことで10人に約4人が65歳以上になることが予想されています。これからは超高齢社会に対応した都市づくりが必要となります。

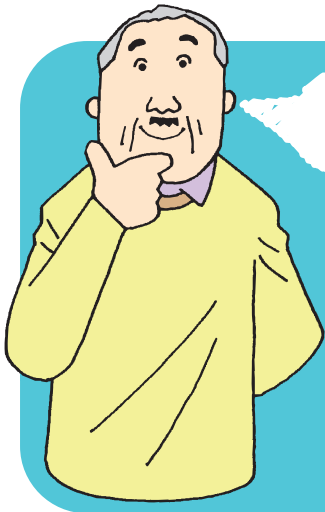
長崎市のこれからの  
都市計画のことを  
わたくしが  
ご説明致します

## 現在

長崎市では、都市づくりを進める上で基本的なルールとなる「長崎市都市計画マスタープラン」について、今年1月から2月にかけて、市内11箇所で開催された地区別懇談会を行い、市民の皆様のご意見をいただきながら、見直しを進めています。



# 都市計画マスタープランって？

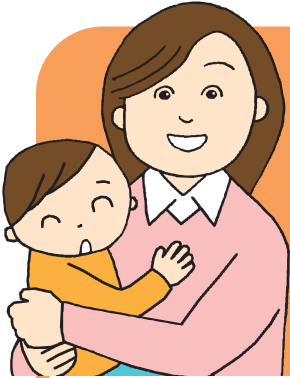


都市計画マスタープランは、「市町村の都市計画に関する基本的な方針」で、おおむね 20 年後のまちの姿を見据えて、都市づくりの方針を示すものです。

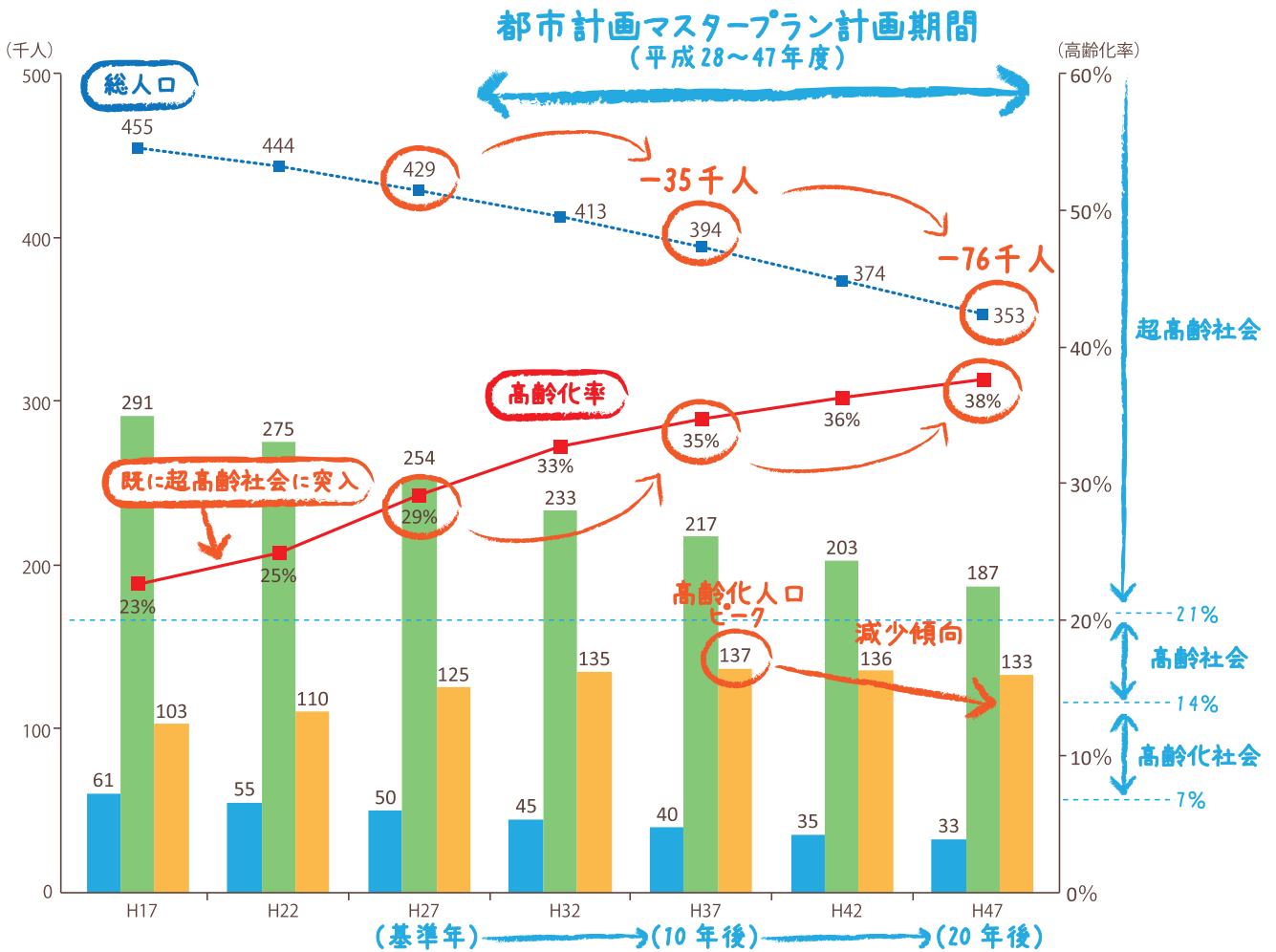
長崎市全体の将来都市像や都市づくりの基本方向を示す「全体構想」と、各地区の将来像や地区づくりの目標を示す「地区別構想」などで構成されています。



# 長崎市を取り巻く状況の変化は？

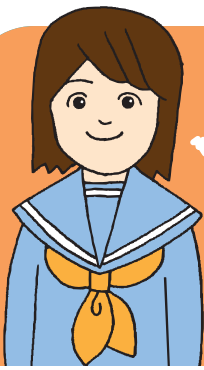


- 人口減少・少子高齢化が進んでいます。
- 平成 47 年には 35.3 万人になると推計されています。(約 8 万人減少)  
(国立社会保障・人口問題研究所の推計)
- 老年人口の増加は、平成 37 年をピークに減少に転じる見込みです。  
(高齢化率は引き続き増加)



■ 年少人口 (0~14 歳)   ■ 生産年齢人口 (15~64 歳)   ■ 老年人口 (65 歳以上)  
 ● 総人口 (社人研)   ■ 高齢化率 (社人研)

※高齢化指標(高齢人口割合)は WHO(世界保健機関)の定義による  
 資料: 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成 25 年 3 月推計)」  
 平成 17、22 年…総務省「国勢調査」、平成 27 年~47 年…推計人口



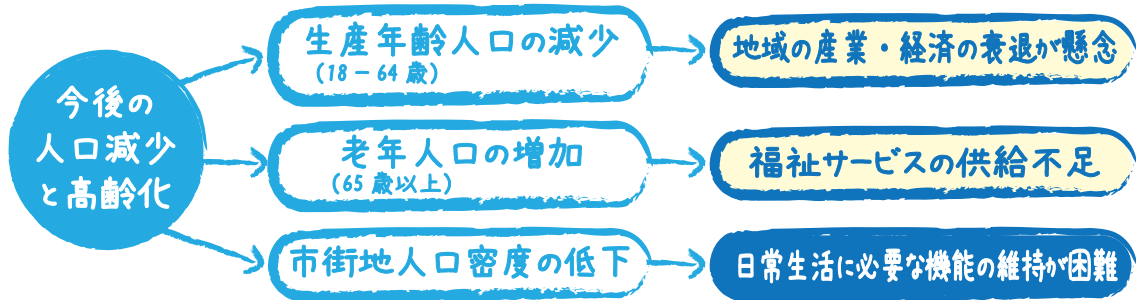
# 人口が減ると どんな影響が あるの？

人口減少は、市街地人口密度の低下を招き、その結果、医療・福祉・商業等の日常生活に必要な機能を維持することが困難になる恐れがあります。



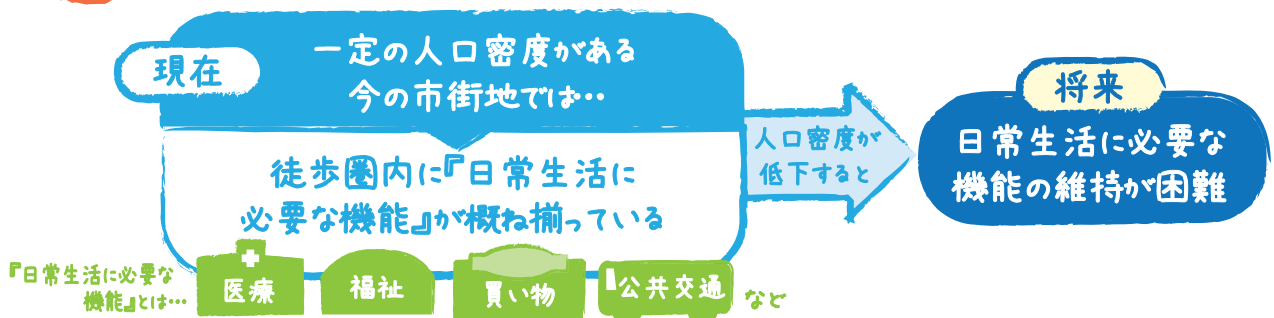
## 視点 1

### 人口減少と高齢化が地域に与える影響と課題



## 視点 2

### 人口密度と都市機能の関係性



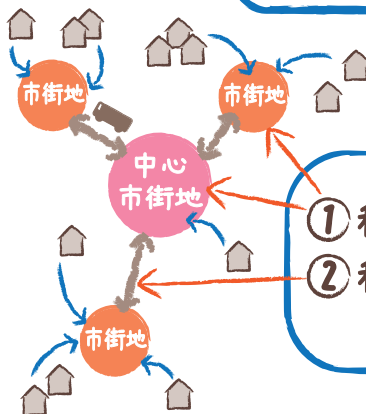
## 視点 3

### 都市構造の考え方

人口減少下においても市街地における日常生活に必要な機能を維持するために…

一定程度の人口密度を維持するため、徐々に居住を利便性の高い市街地周辺へ誘導

※ただし、一定の人口密度を維持することが目的であり、全ての人を中心市街地へ一極集中することを目指すものではありません。



(住宅移転そのものへの支援や規制による実現ではなく)

- ① 利便性の高い市街地に日常生活に必要な機能を計画的に誘導・配置
- ② 利便性の高い市街地と周辺部の間を公共交通によりネットワーク化

### 「集約連携型」都市構造の実現

